



基本構想

1 将来像

豊かな自然と大地に恵まれた美幌町は、農林業を軸に、交通の要衝という立地を活かしながら、また、自衛隊が駐屯するまちとしてこれまで発展してきました。

日本全体が人口減少時代を迎え、基盤整備中心のまちづくりから、人や環境をより重視したまちづくりが求められています。

美幌町は、先代から引き継いだ地域の資源や環境を大切に守りながら、地域の力としていくとともに、人の輪や交流を今まで以上に大切に、「人が育つ」「人が中心」のまちづくりを進めます。

そして、次世代・未来へと、地域の資源とともに人がつながり、夢が持てるまちをめざします。

さらに、「ひとがつながる、みらいへつなげる」まちづくりが美幌町の魅力となり、住んでいる人が誇れるまちになることをめざします。

このようなことから、第6期美幌町総合計画の将来像を、次のようにさだめます。

ひとがつながる、みらいへつなげる ここにしかないまち びほろ

ひとがつながる：人とのつながりを大事にする。人の輪を広げていく。連携を強化していく。

みらいへつなげる：課題を解決しながら、次世代の子ども達に夢がもてる美幌町を継承する。持続可能なまちづくりを進めていく。

ここにしかない：美幌町の絶対的な魅力が光り、地域力が発揮されるまち。ここでしか味わえないことがある、ここが好き、ここが自慢、こんなすごい人がいる、と誇れるまち。

2 人口の指標

大正12年に誕生した美幌町は、人口の増加が続き、一時、若干の減少があったものの、昭和60年の国勢調査では、26,686人となりました。その後は減少に転じ、その傾向が今日まで続いています。

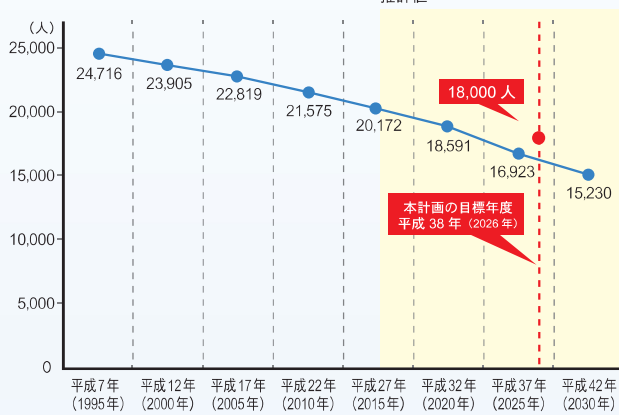
これまでの動向をふまえ、今後の総人口を推計※すると、平成37年に16,923人、平成42年には15,230人という推計になります。

この計画では、雇用の拡大・安定や子育て支援の充実、いつまでも住み続けられる生活環境づくりなど、定住につながる取り組みとともに、移住人口を増やす取り組みを積極的に進めることとし、計画最終年次である平成38年の目標人口を18,000人とします。

また、年齢3区分人口については、0～14歳を2,050人、15～64歳を9,500人、65歳以上を6,450人とします。

※ 過去の国勢調査の実績値（総人口数）をもとに、性別・年齢5歳階級別人口ごとに5年間の増減率（変化率）を算出し、今後もその率が一定であると仮定し推計する「コーホート変化率法」という推計方法を用いています。ここでは、平成12年・17年・22年の実績値をもとに、過去2回分の変化率を用いて推計しています。

人口の推移と今後の推計



年齢3区分別人口の割合

	国勢調査の実績値 (人) ※ () 内は割合				目標年度
	平成7年 (1995年)	平成12年 (2000年)	平成17年 (2005年)	平成22年 (2010年)	平成38年 (2026年)
0～14歳	4,279 (17.3%)	3,606 (15.1%)	3,031 (13.3%)	2,720 (12.6%)	2,050 (11.4%)
15～64歳	16,582 (67.1%)	15,564 (65.1%)	14,289 (62.6%)	12,903 (59.8%)	9,500 (52.8%)
65歳以上	3,847 (15.6%)	4,733 (19.8%)	5,498 (24.1%)	5,950 (27.6%)	6,450 (35.8%)
合計	24,716	23,905	22,819	21,575	18,000

※合計には年齢不詳の人口も含まれていますので、各項目の合計とは一致しません。

3 基本目標

将来像「ひとがつながる、みらいへつなげる ここにしかないまちびほろ」の実現に向けて取り組んでいくための、5つの基本目標を設定します。

それぞれの基本目標でめざす「まちづくり」をイメージするために想いを込めた「漢字1文字」を設定し、基本目標とともに示すこととします。

ひとがつながる、
みらいへつなげる
ここにしかないまち
びほろ

基本目標1 **創** 人を**創**り、地域力を高めるまちづくり

基本目標2 **護** 自然の美しさやくらしの安心を、
みんなで**護**りあうまちづくり

基本目標3 **活** まちの資源や持ち味を、
活力に換えていくまちづくり

基本目標4 **集** 住みやすく、
人が**集**まる基盤をつくるまちづくり

基本目標5 **育** 夢を**育**む体験！
あたたかい人をつくるまちづくり

(1) 基本目標1 - 人を創り、地域力を高めるまちづくり

創

【音】ソウ
【訓】つくる、はじめる
【選定理由】人を創る、和を創る、育を創る、協調性を創る、愛を創る、全てに協調する漢字。

- ・ 交通事故や犯罪、自然災害などから町民の命や生活を守るとともに、情報網や公共交通手段の利便性を高め、超高齢社会でも便利で安心して生活できる環境を創ります。
- ・ 若い世代の力や意見を引き出し、自治会力や地域コミュニティの機能を高め、次の世代を担う人や地域を創ります。
- ・ 性別や年代、立場や職業などに関係なく、美幌町に住む人達が集まったり、交流することができる機会を大切に、人の輪を創ります。
- ・ 町民と行政がそれぞれの情報を共有し、知恵を出し合う関係を深め、まちづくりの課題を解決して生き抜く「知恵」と「力」のあるまちを創ります。

(2) 基本目標2 - 自然の美しさやくらしの安心を、みんなで護りあうまちづくり

護

【音】ゴ
【訓】まもる、まもり
【選定理由】福祉や、環境にもつながる一文字 自然の中で仲良く安心して暮らせるまちをめざすための一文字。

- ・ 恵まれた自然環境を次代に引き継いでいくために、自然を大切にすること意識や取り組みをまち全体に広めるとともに、環境負荷に配慮した廃棄物の処理やリサイクルを進め、美幌町の環境を護ります。
- ・ 保健・医療・福祉をはじめ、関係機関の連携をより一層深め、町民の心身の健康づくりを積極的に援護します。
- ・ 子育て家族や高齢者、障がい者など、一人ひとりの立場で異なる不安を取り除き、生活を擁護することで、だれもが安心して暮らせる、人にやさしいまちをつくります。
- ・ 身近な地域での支え合い、町民主体のボランティア活動などを支援し、世代の枠を超えたつながりにより、孤独になりやすい人達の生活をお互いに護りあえるまちをつくります。

(3) 基本目標 3- まちの資源や持ち味を、 活気に換えていくまちづくり

活

【音】 カツ
【訓】 いきる、いかす

【選定理由】「活性化、活気ある」のほかに「新鮮な」という意味も。また、美幌町に喝（活）を入れたいという気持ちも込めて。

- ・ 基幹産業である農林業を活かし、次の10年を見据えながら産業の裾野を拡大し、経済波及効果や雇用の創出につながる取り組みを積極的に進め、企業が伸びるまちをめざします。
- ・ 美幌町内で起業したいという人を支援するとともに、美幌町内で働いている人達が、生き活きと楽しく働けるまちをめざします。
- ・ 日常の買い物環境がより楽しく、便利に感じられる、活気あるまちづくりをめざします。
- ・ 美しい自然、新鮮な農産物や食、交通の要衝という恵まれた立地など美幌町の特長を観光振興で積極的に活かし、行ってみたいと思われるまちをめざします。
- ・ まち全体の創意工夫により、地域資源を活かした特産品の開発や地産地消の推進、来訪者の滞在促進などを進め、地域経済の循環を活発にし、まちの活力につなげます。

(4) 基本目標 4- 住みやすく、人が集まる基盤をつくるまちづくり

集

【音】 シュウ
【訓】 あつまる、つどう

【選定理由】施設を集約し町をコンパクトにまとめていく。また、人やものが集まり、にぎわいを取り戻す。

- ・ 交通の利便性やコンパクトシティである強みをさらに高めるため、中長期的な視点を持ちながら、まちなかに人が集まりやすい環境を整え、にぎわいを再生します。
- ・ ユニバーサルデザインを取り入れた環境整備を進め、年齢や障がいにかかわらず、誰もが住みやすく、人が集まる基盤をつくれます。
- ・ 老朽化の進んだ施設や設備については、有効に活用することに努める一方、適切に更新や集約を行い、より管理しやすい体制にしていきます。
- ・ 身近なところで自然やうらおいを感じられる空間や景観を増やすほか、子ども達が安心して自由に集まれる環境をつくれます。

(5) 基本目標 5- 夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり

育

【音】 イク
【訓】 そだつ、そだてる
はぐくむ

【選定理由】夢を育むチャレンジを大切にしたい。大人と子どもが共に育みあい、温かい人づくりをめざしていく。

- ・ 子どもの頃から、また、大人になっても、学びや夢を育む体験(チャレンジ)、スポーツ活動、芸術文化活動など豊かな経験を通じて、美幌町を愛する人が育つまちをめざします。
- ・ 「大人が変われば子どもも変わる」という考え方のもと、子どもへの関心をまち全体で高め、子どもの心身の成長を地域で見守り育てます。
- ・ 地域での体験や見学、食育などを通じて美幌町の良さを知る教育を大切に、学びたくなる学校づくりを進めます。
- ・ 美幌町の自然や歴史、食、産業、施設、豊かな経験を持つ人達などを教育に活かし、子どもからお年寄りまで、楽しく元気に学び活動できる機会を増やします。
- ・ 学びや活動の成果が個々の生きがいや、次代を担うひとを育てる人づくりを目指します。